

プラネッタ 14歳



「瞬間永久記憶能力」の持ち主。
胎児の時からこれまでの記憶をほぼ完璧に覚えている。
いつもは脳の奥にしまってあるが、思い出そうとすれば
その時誰がなんと言ったかまで正確に思い出せる。
意図せず過去の嫌な記憶をフラッシュバックすることがあり、
突然パニック症状を引き起こしたりすることもある。
肝の座った少年で、滅多に驚かない。怒ることもなく
穏やかで、周りから一步下がった位置にいる。
記憶に頼りすぎているせいか、
新しいことには苦手意識を持つ。

雪の降る夜、誰かが教会の前に置き去ったゆりかごの中で見つかる。
彼と共に「三歳 男の子」と書かれた紙が入っていて、シスター・メアリーによって
保護される。本人は誰が自分を置いていったのか覚えているが、頑なに口を開かない。
無理に思い出そうとするとパニック状態に陥る。

また、一度養子として引き取りたいという夫婦が現れたが、外の世界でタブーを犯し
僅か一日で孤児院に戻ってきてしまう。その際に言われた「悪魔の子」という言葉に
酷く傷ついている。

シルヴァイン 15歳



ギフテッドと呼ばれる知能指数の高い少年。
決められたルールに従うことなく効率的に損得で
動くので、集団行動が苦手。好奇心に忠実で、
見たい、したい欲に駆られるとすぐに行動に移す。
人にもものを教えることが好きなので兄貴面が合っている。
最近やってきたフィオに最年長という肩書きを奪われ
勝手にライバル視しているが、フィオからは
「可愛い」と子供扱いされていてそれがまた癪に
触っている。宇宙に行くことが夢。

チャイルズ・クリドル、最初の子供。三歳の冬、歳を取った祖父に手を引かれ教会にやってくる。両親が他界し高齢の祖父が面倒を見ていたが、孫を一人置いて亡くなるのが気がかりで、孤児院に預けることを決めた。彼のみ両親が名付けた名前のまま生活している。

また、祖父は月に一度シルヴァインに手紙を送っていたが、一年経った辺りから連絡が途絶えている。

シスター・メアリーとは一番長い付き合いで、本当の母親のように慕う反面、叱られることにうんざりしている。プラネッタの名付け親。

ヘレン 14歳



狼から受け継いだのは鋭い五感と、身体能力。
そして、全ての生き物に対する敬愛の心_____

約五年ほど狼と共に生活していた野生児の少女で、
今でも手掴みや口で直接食事を取ろうとする。
表情が変わらずぶっきらぼうな性格だが動物と心を通わせ
仲良くなれる優しい一面もある。
機械や物をすぐ壊す。力加減が分からないので人を
突き飛ばして怪我をさせたりすることもしばしば。
兄弟の中で唯一の女の子だが、誰にも引けを取らない。
負けず嫌いで頑固。

アイルランド、アルスター州の森林で見つかった「最後」のハイロオオカミの娘。
四歳の時に森の中に捨てられたヘレンの命を拾ったメスオオカミは、そのせいで群れから
見放されたが、生涯ヘレンから片時も離れず生き延びた。

食糧不足でオオカミが人里へ降りた際に猟師によって撃ち殺され、ヘレンは保護される。

野生児の人体実験を目的にヘレンを研究施設へ移送する依頼を受けた

シスター・メアリーが依頼放棄し彼女をチャイルズ・クリドルに迎え入れる。

発見時、大量の寄生虫が体内から検出され、暴れないようにほぼ強制的な拘束の下、
半年以上も治療のため入院していた。

アルフ 13歳



優れた洞察力と観察力で他人の心を見透かす能力の持ち主。

仕草、表情、声色などから相手が何を考えているのか分かるので、嘘を見抜くのは朝飯前。トランプなどのゲームでは無双する。怒りや失望の念に敏感で、機嫌の悪い人の前にいると恐縮し、やたらと謝る癖がある。

思い込みが強く、受信した情報が誇張されて伝わるが多々ある。世話焼きで正義感が強く、子供たちの間で
お母さんと呼ばれている。

兄弟の中で唯一の日本人。自分の能力のせいで他人から向けられる視線や気持ちに悩まされていた。生きる希望を失くして身を投げようとしていた時、偶然出会ったケイラーによって心変わりに成功する。ケイラーがシスター・メアリーによって連れて行かれることを知った際に、「僕も連れてって」と強く願いチャイルズ・クリドルにやってきた。

また、現在日本では行方不明者として搜索が続けられている。

ケイラーと二人きりの時のみ、ケイラーのことを本名（日本での名前）で呼ぶ。尚、ケイラーはアルフの本名を覚えていない。

ケイラー 14歳



育った環境のせいか、はたまた天性の贈り物か。
彼は法も秩序も知らない無邪気な少年_____

独創的な感性と果てしない想像力を持ち、常人には予想もつかない行動をするので、彼の立ち振る舞いは院の中でも極めて異色を放っている。右頬にほくろが二つある。最近のブームは髪を結くことで、毎朝違う髪型で食堂にやってくる彼をみんなは密かに待ち侘びている。

母親はアメリカの受刑者。刑を免れるために看守との子を妊娠し、ケイラーを出産。すぐに母親から取り上げられ密売業者の船により日本にたどり着く。移民が住み着く地方のスラム街のような場所で幼少期を過ごしていたが、違法ドラッグの接種により脳の判断能力に異常をきたしている。字は書けないが、絵を描くことは好き。

また、痛みを感じる神経が鈍っており、怪我に気づかない。スラムを抜け出して、都心に出かけたことがある。そこで出会ったアルフと友人になり長い間彼と共にいる。ケイラーの搜索、及び拘束を目的とした依頼で日本に来ていたシスター・メアリーによって発見されるが、組織に引き渡されることなく失踪と言う形でチャイルズ・クリドルにやってくる。

フィオ 16歳



「共感覚」の持ち主。

音が色や形に姿を変えて見ることができる能力で
ひどい時は視界全てが黒で覆われてしまうことがある。

騒音や感情の混じる会話を聴くのが嫌で
大抵、院の外の木の上で昼寝をしている。

食事も一人で取る。たまに顔を合わせると
普通に挨拶してくれるが皮肉めいた話し方をするので
会話が長く続かない。

イギリス南部、コーンウォール州の沿岸村にて
見た目に酷く影響の出る病を患っていた母親と共に迫害を受け、住処を失い転々として生活していた。

病状の悪化で母親が死去し、魔女狩りに成功したと騒ぐ村人たちから首を切られそうになったところをシスター・メアリーが救出した。

母親の病をフィオ自身も受け継ぎ、現在は無症状だが二十歳まで生きられないと診断されている。病院で治療すれば良くなる可能性もあったが本人が嫌がり、「死ぬまで普通に生きてみたい」という希望の下、十六を迎えた今でもチャイルズ・クリドルに身を置いている。